

# 実証対象技術審査表（案）

## 1.申請

実証申請者は、実証機関に申請者が保有する技術・製品の実証を申請することができる。申請時に提出すべき内容は、実証機関が実証対象技術の選定に際し、対象技術の妥当性及び実証試験実施の可能性を判断するために最低限必要な情報であり、具体的には、主に以下に示す項目とする。付録1に定める「実証申請書フォーム」に必要事項を記入するとともに、指定された書類を添付して、実証機関に対し申請を行うものとする。

なお、実証試験要領が改定され、その試験条件等が変更された場合は、過去に実証試験を受けた技術・製品について、再度実証申請を行うことも可能である。

- ・企業名・住所・担当者所属・担当者氏名等
- ・技術の原理・製品データ
- ・技術の特徴・長所・セールスポイント
- ・計測器等の設置状況、仕様、精度
- ・自社による試験結果(性能の自主公表値)
- ・技術仕様
- ・コスト概算
- ・開発状況・納入実績
- ・技術の先進性について
- ・水質及び周辺環境への影響について
- ・その他(特記すべき事項、実証機関が要求する事項等)
- ・〈書類〉構成機器の仕様、計測器の仕様・精度、設備構成図等、実証対象製品及び計測器の内容が把握可能なもの
- ・〈書類〉施工マニュアル

## 2.対象技術審査

実証機関は、申請された内容に基づいて以下の各観点に照らし、技術実証検討会等の意見を踏まえつつ、本事業に対する理解等も含め総合的に判断した上で対象とする技術を審査し、選定した技術について環境省の承認を得る。

### (1)形式的要件

- ・申請技術が、当要領に示す対象技術に該当するか。
  - ・申請内容に不備はないか。
  - ・商業化段階にある技術か（普及段階にある技術または商品化計画が立てられている技術であるか）。
  - ・同技術について公的資金による類似の実証等が行われていないか。
-

## (2)実証可能性

- ・ 予算、実施体制等の観点から実証が可能であるか。
- ・ 当要領に準拠した実証試験の実施が可能か。

## (3)環境保全効果等

- ・ 技術の原理・仕組みが科学的に説明可能であるか。
- ・ 副次的な環境問題等が生じないか。
- ・ 環境保全効果が見込めるか。
- ・ 先進的な技術であるか。

## 3.その他の留意点

基本的には実証申請者が一度に申請できる申請件数には制限を設けないが、実証機関の想定する実証可能件数を超過して申請があった場合には、実証機関は、実証申請者との協議により件数を調整することとする。

また、審査の段階で、実証申請者は実証機関との間で、試験期間・時期等を含めた具体的な実証の方法について、協議を行うことができる。個々の申請技術の審査結果は原則公開しないこととする。

## 4.選定された技術に関する情報の公開等

実証機関及び環境省は、選定された全ての対象技術の概要(実証申請者名、技術開発企業名、実証対象製品名及び実証対象製品の型番)を実証対象技術として公開する。また、実証機関は、対象技術の選定結果を当該技術の申請者に通知する。なお、選定の結果、当該技術を実証の対象をしないこととした場合には、当該申請者への通知に際しその理由を明示するものとする。

実証申請者名		株式会社日立産機システム		シーベルインターナショナル株式会社	
実証対象技術（仮名称）		エネルギー回収システム		STREAM	
(1) 形式的要件	申請技術が実証試験要領で示す対象技術に該当するか				
	申請内容に不備はないか				
	商業化段階にある技術か				
	過去に公的資金による類似の実証等がおこなわれていないか				
(2) 実証可能性	予算、実施体制等の観点から実証が可能であるか				
	当要領に準拠した実証試験の実施が可能か				
(3) 環境保全効果等	技術の原理・仕組みが科学的に説明可能であるか				
	副次的な環境問題等が生じないか				
	環境保全効果が見込めるか				
	先進的な技術であるか				
総合判定結果					

評価○：問題なし△：要検討×：問題あり

実証申請者名		株式会社篠田製作所		藤沢管工株式会社	
実証対象技術（商品名）		上掛け水車		マチナカ発電	
(1) 形式的 要件	申請技術が、実証試験要領 で示す対象技術に該当す るか				
	申請内容に不備はないか				
	商業化段階にある技術か				
	過去に公的資金による類 似の実証等がおこなわれ ていないか				
(2) 実証可 能性	予算、実施体制等の観点か ら実証が可能であるか				
	当要領に準拠した実証試 験の実施が可能か				
(3) 環境保 全効果 等	技術の原理・仕組みが科学 的に説明可能であるか				
	副次的な環境問題等が生 じないか				
	環境保全効果が見込める か				
	先進的な技術であるか				
総合判定結果					

評価○：問題なし△：要検討×：問題あり